

ごあいさつ

京都府茶業会館の建物は、昭和3年に建てられた木造2階建（桁行6間半、梁間4間半）入母屋造瓦葺の近代和風建築で、茶産業の発展を支えてきた京都府茶業会議所の会館として、その趣と歴史を今に伝える建物です。あわせてこの建物は、茶業の近代化とその変遷を具体的に伝えるものとして、平成21年に国が指定する重要文化的景観の重要な構成要素、平成27年に日本遺産の構成文化財に認定いただいています。

当会議所は、明治17年に京都府下茶業組合取締所として設立されたことに始まり、大正3年に紀伊郡堀内村最上（現京都市伏見区桃山最上町）に事務所を建設し、昭和3年に現在地に移転しました。茶業組合取締所は、昭和19年に京都府農会茶業部、昭和26年に社団法人京都府茶業協会、昭和35年に社団法人京都府茶業会議所として組織改編されましたが、建物は事務所として用いられ、「京都府茶業会館」として親しまれてきました。平成21年に京都府茶業会議所が事務所を新築移転するとともに、この敷地は宇治茶振興のための宇治茶道場「匠の館」として活用することといたしました。会館は1階を改修し、研修室としてしばらく利用していましたが、平成26年度の劣化状況の調査の結果、修理が必要となり、平成27年度の修理設計と耐震診断及び耐震設計を経て、平成28年に大規模な修理事業を行い、建築当時の輝きを取り戻しました。

今後ともこの建物が多くの人たちに親しまれ、活用されながら伝えられていくよう取り組んでまいりたいと考えます。

平成29年4月

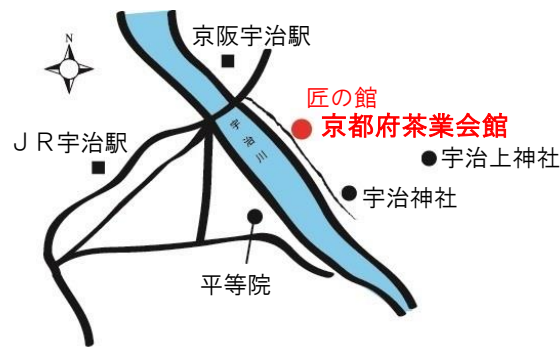
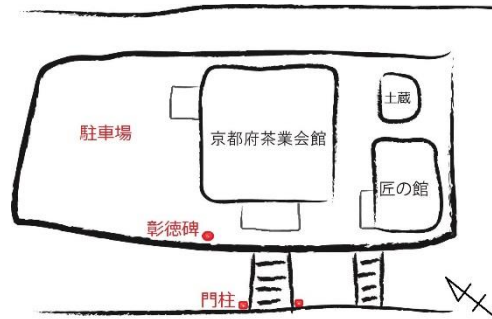
公益社団法人 京都府茶業会議所
会頭 杉本 貞雄

日本遺産 ～日本茶 800年の歴史散歩～

日本遺産は、地域の歴史的な魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するものです。京都・南山城は、お茶が中国から日本に伝えられて以降、約800年間にわたりお茶を作り続け、その景観を今に伝える美しい茶畑や茶問屋などが優良な状態で伝えられている唯一の場所として、平成27年に日本遺産に認定されました。京都府茶業会館は、日本遺産の構成文化財「中宇治の街並み」を代表する建物です。

重要文化的景観「宇治の文化的景観」

文化的景観は、文化財保護法によって日本の伝統的な景観地が選定されるものです。歴史的な町並みとお茶の景観地として「宇治の文化的景観」が平成21年に選定されました。京都府茶業会館は近代茶業家屋の代表例として重要な構成要素に選定されています。



- 京都府茶業会館
611-0021 京都府宇治市宇治又振 17 番地 1
(宇治茶道場「匠の館」TEL0774-23-0888)
- 施設利用等について詳細な問い合わせ先
公益社団法人京都府茶業会議所
611-0021 京都府宇治市宇治折居 25 番地 2
TEL:0774-23-7713(平日9時～17時)
FAX:0774-23-9651
URL:<http://www.ujicha.or.jp>



国選定重要文化的景観 重要構成要素
日本遺産 日本茶 800年の歴史散歩 構成文化財

京都府茶業会館



公益社団法人
京都府茶業会議所



調度品

昭和3年建築当初からの家具一式

⑤

玄関大戸

保管されていた建築時の木製の玄関扉。当初は内開きでした。



玄関構え

玄関構えには社寺建築のような重厚な装飾が施されています。棟端に鱧付経之巻獅子口を置き鱧付懸魚や墓股、端部に装飾があります。



玄関扉の装飾

床板

第2研修室
組み木風の床板張り



第3研修室
桧材の床板張り



喫茶店 茶業組合連合会議所



優待室

④

右横書きの額

昭和26年の昭和天皇宇治行幸時に使われました。

⑥

欄間

玄関ホールにある装飾が鮮やかな欄間です。



②

鳳凰堂模型

昭和23年の新聞紙に包まれた状態で発見されました。当時の博覧会に出展されたものと推定されています。平成21年に塗装等の修理をしています。

③ 金庫

1階第1研修室には昭和3年の建築時に設置されて以来使用されてきた金庫が残されています。重厚なつくりで床下は煉瓦で補強されています。



⑦ 吊床

2階第3研修室は洋風広間ですが、東側に上座用の吊床を設けています。



下は昭和33年の京都市長らが出席されている会議の様子です。

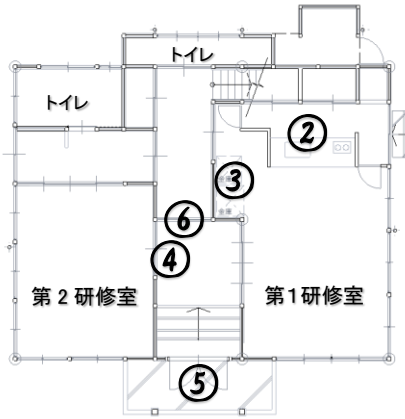


(宇治市歴史資料館提供)

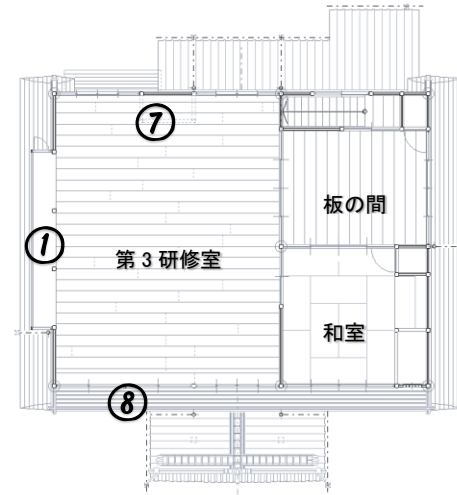
天井は吹き寄せ格天井張りで昭和3年時の合板が残されています。格式の高い雰囲気です。



京都府茶業会館の見どころ



1階



2階

① 拝見台(拝見場・審査場ともいう)

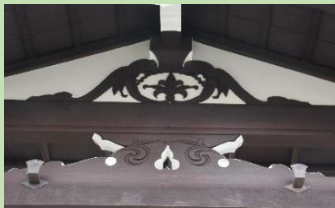
この黒塗りの板で囲まれた施設は、お茶の審査をする場所で拝見台と呼ばれています。上部から採光し、茶葉やお茶の微妙な色味や風合いを安定した自然光の下で見極めるためのものです。茶業関係の特設的な施設です。北面に設置されています。下の写真は、昭和33年に行われた宇治市第1回製茶品評会の様子です。建築当初は1階の東側に設置されており、幅も現在の半分程度であったようで、後に2階に移されました。京都府茶業会館の拝見台は、宇治で現存する中で、最大のものであります。



(宇治市歴史資料館提供)

宇治上神社との類似箇所

本会館は宇治上神社や宇治神社また平等院などの文化財に恵まれた環境にあり、建築にあたってこれら古建築の意匠が会館の細部に取り入れられたと考えられます。



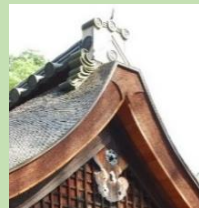
かえるまた 墓股 (京都府茶業会館)



かえるまた 墓股 (宇治上神社本殿)



ししごら けぎよ 獅子口と懸魚 (京都府茶業会館)



ししごら けぎよ 獅子口と懸魚 (宇治上神社)



くまかし 釘隠 (京都府茶業会館)



くまかし 釘隠 (宇治上神社)



ふなひじま (宇治上神社)



高欄 (宇治上神社)



ふなひじま (京都府茶業会館)



⑧ 高欄 (京都府茶業会館)